

ポラリスを仰ぐ北の大地から



何時の間にか

羊蹄医師会 会長 皆川 幸範

倶知安に住むことになった時にお世話になった家具屋さんが、51年の幕を閉じることになった。食器棚やテーブル、椅子など今でも使っている丈夫で良いものを紹介してくれた。

ここで商売していた人たちも高齢になり、店を閉じた人も多いが、店が売れたり若い人が借りて新たに店を始めたりした所もある。

先日発表された道内公示地価上昇率で、住宅地も商業地も倶知安町が全国1位だった。

前回まではスキー場のある山田が全国1位だったがリゾートの土地は買い尽くされ、そこで働く従業員向けアパート建設などが市街地に広がってきているようだ。町内では今まで空き地で雪捨て場だった所に、アパートが出来上がりびっくりにすることがある。豪雪を知る日本人経営のアパートでは問題ないが、外国人経営で急速に新築されたものは土地に余裕がなく、今後除雪の問題が出てきそうだ。

10歳の女の子がスキー合宿に参加していて、コースから外れて木に衝突し死亡した。今までもプレーヤーが禁止区域に無視して入って事故死する例はあったが、インストラクターがついていての子供の事故で残念でならない。スキーリゾートの町として二度とこのような事故のないように願いたい。

先日20年以上診てきた農家の老夫婦が、土地が売れて札幌に住む娘の近くにマンションを買い（将来は娘に譲るとのこと）転居していった。また連れ添いが亡くなって独り住まいの患者も数人が、町内の施設に入るか札幌の施設に入るなど住み慣れた家を出ることになった。地域医療構想調整会議や保健医療福祉圏域連携推進会議など進められているが、独居老人の生活はなかなか難しい問題だ。

赤ん坊の時から診ていた子が、何時の間にか母親になって受診してきた。皆いい若者になっている。自分も老いるはずだ。最近抜糸の時、細い縫合糸が見えにくくなってきた。



消滅する岩内古宇郡 (医師会?)

岩内古宇郡医師会 会長 北山 秀

岩内古宇郡医師会は岩内町・共和町・泊村・神恵内村の2町2村の医師が所属しています。

この地域はすでに人口減少が進行し高齢化率も高くなっています。「増田レポート」では2010～2040年で20～39歳の若年女性人口の減少率が高く、2040年には人口1万人未満の、消滅可能性の高い自治体の集まりです。日本のような移民の少ない社会では人口を維持するためには出生率を上げる必要がありますが、人口置換水準（出生率約2.1）に引き上げることは大変な困難を伴うと考えられています。たとえ出生率を2.1に回復したとしても、人口減少が止まり安定するには60年かかると考えられています。有効な対策がない現在、人口減少は避けられない事実ですが早く手を打たないと100年後の日本の人口は5,000万人まで減少し、国力は低下し続けるだけです。この地域も人は減少しますが、地方の雇用減少を辛うじて食い止めている医療・介護分野の雇用を守るためにも、医師会としてこの地域の医療・介護ネットワークを守っていききたいと思います。

この地域の懸念は残念ながら他にもあり、一つは基幹病院である岩内協会病院の慢性的な医師不足です。対応困難な疾患・外傷等もあり、二次医療圏の後志や札幌の医療施設の助けが必要です。

二つ目は泊発電所の存在です。医師として最悪の事態を想定しなければいけないということは承知していますが、社宅や寮が人口を支えており、地域の経済に与える影響は大きく、今すぐに廃炉という選択は難しいと思います。

最後に我が医師会に所属する診療所に後継候補者があまりいないことに気が付きました。街がなくなる前に医師会がなくなる!?